

## バンデューセン植物園

20～30分 観光ツアー説明文

当園のガイドマップとあわせてこの観光ツアー説明文をご覧ください。

バンデューセン植物園にようこそお越しくございました。当園は豊富なコレクションとバラエティに富んだ植物の王国として多くの人々に様々なかたちで親しまれています。

当園のツアーを始める前に、是非ビジターセンター (Visitor Center, 2011年10月オープン) にお越しく下さい。このビジターセンターのデザインはランの葉のような有機的形態から発想を得たもので、当園の風景と調和を保つように造られています。このビジターセンターの最も重要なポイントは、この建物が「環境に優しく」省エネ、節水、省資源をもととしており、廃棄物をより少なく、より健康的かつ無害の環境をビジターセンター内に造りだすように設計されていることです。

当園のツアーを始めるにあたり、リビングストーン湖 (Livingstone Lake) を見渡す中庭 (the Plaza) にお進みください。リビングストーン湖は1960年代から1970年代にかけてのバンクーバー市の公園局の副責任者であり、今日の当園を形作る湖や岩の形などのデザイナーでもあったリビングストーン氏 (W.C. (Bill) Livingstone) の名前をもとに命名されました。今日の当園はリビングストーン氏の傑出した造園デザインと、当園の初代園長であったロイ・フォスター氏 (Roy Forster) による素晴らしい植物コレクションの融合により形作られています。以前はゴルフコースであったこの土地は、1975年8月に植物園として公開されることになりました。慈善家のバンデューセン氏 (W. J. VanDusen) が私財を投じてカナダ太平洋鉄道会社 (the Canadian Pacific Railway Company) から買い取ったことにより、当園はバンデューセン氏の名前をもとに命名されました。

リビングストーン湖 (Livingstone Lake) は当園にいくつかある人工の水景設備の一つです。湖の採掘作業中に1万2千年前にブリティッシュ・コロンビア州ロウワーメインランド地区 (BCs lower mainland) の大半を覆っていた古代の海底が発見されました。当園は現在海拔400フィート (約120メートル) に位置し、バンクーバーの中でも2番目に高い場所にあります。当園の近くに位置するクイーンエリザベス公園 (Queen Elizabeth Park) はバンクーバーの中で最も高い場所にあります。

坂道を右に下り、リビングストーン湖に沿ってお進みください。マイケル・デニス氏

(Michael Dennis) によるベイスギ (学名: *Thuja plicata*) で創られた2対の彫刻「自信 (Confidence)」を囲んでいるのはイチョウ (学名: *Ginkgo biloba*) の木々です。これらイチョウは「生きる化石」とも言われ、太古の昔、恐竜の住んでいた時代には広い範囲

に分布していましたが、今や野生のものはほぼ失われています。しかしながら、イチヨウの実（ギンナン）は珍味として中国の仏僧の間で珍重され栽培されてきたことから、イチヨウは今日まで生き永らえてきました。ギンナンは血行を良くし、記憶力を高める漢方薬としても使われています。イチヨウはまた汚染された環境にも耐性があります。

モクレンやシャクヤク（牡丹）の木々を右手に、亀の休息場にもなる岩を左手に見ながら分岐道までお進み下さい。浮橋が架けられたサイプレス湖（Cypress Pond）が前方に見えてきます。浮橋の前にはラクウショウ（学名：Taxodium distichum、別名「沼杉」）があります。これら落葉針葉樹の葉は、春には針のように細長く繊細な黄緑色をしていますが、秋には赤茶色に変わり、あたりを素晴らしい眺めにします。近くでよくご覧頂くと、「ひざ」のような穴だらけの根が木の幹の周囲の土や水面から隆起して生長しているのが目に留まります。ラクウショウ（沼杉）は米国南東部原産で、湿地によく適応する木として知られます。

進路を左に曲がり、石橋を越えると地中海（Mediterranean）原産の植物があります。ここで存在感を示しているのはレバノン杉（学名：Cedrus libani）やブルーアトラスシダー（学名：Cedrus atlantica Glauca Group）と呼ばれる本物の杉です。ラベンダー、ローズマリー、セージ、タイムは地中海地域原産の数多くの香草の種類のうちほんの一部のもので、地中海地域の長く厳しい夏の間において、これらの香草のアロマオイルは香草の葉から水分の蒸発を減少させる役割を果たしています。

分岐路を左に曲がり、南半球庭園（the Southern Hemisphere Garden）にお入りください。

南半球の植物は北半球の植物とは異なった進化を遂げてきました。ここに植えられている夏に花を咲かせる球根の多くは南アフリカ原産のもので、ここでは南半球原産の様々な木々を見ることが出来ます。一例として、葉に少しぎざぎざのある南極ブナ科の木（学名：Nothofagus antarctica）があります。また、モンキー・パズル・ツリー（学名：Araucaria araucana）はチリおよび南西アルゼンチン原産の植物で、皮のようなハリのある鋭いトゲをもつ枝が特徴的です。他にも、青みがかかった灰色の葉をもつオーストラリア原産のユーカリもあります。根元に微毛があり、分岐した葉状体をもつのはオーストラリアおよびタスマニア原産の木生シダです。他にもチリ原産のひときわ目をひく常緑樹であるコイゲ（学名：Nothofagus dombeyi）もあります。このセクションで最も多くを占めているのはベイスギ（学名：Thuja plicata）です。これらのベイスギは当園がまだゴルフコースであった時からこの地にもともと生えていた木々であり、南半球原産のものではありません。ベイスギは本来はスギ（杉）ではなくヒノキですが、スギと同じように耐久性がとても高くよい材木であることから、スギ（cedar）という名前がつけられていま

す。

写真を取るに相応しい素晴らしい景色をお楽しみ頂くため、そのまま道を真っ直ぐお進みになり、石段を上がるとそこは当園の南半島 (the **Southern Peninsula**) エリアです。そこから新旧のビジターセンターを眺めることが出来ます。先ほどの道にお戻りになり、左に曲がりジグザグ状の橋をお進みください。近くで鯉や水鳥や青サギが見えるかもしれません。チリ原産のグンネラ (*Gunnera*) の巨大な葉が池のほりにあるかもしれません。

勾配を登り黒い玄武岩の集合体でつくられた洞窟 (**Grotto**) を右にお進みになるとヘザーガーデン (the **Heather Garden**) に至ります。ここでは18世紀のイギリスで考案された風景式庭園を見ることができます。その庭園の様式の特徴として、ヘザー (ユーラシア原産の常緑低木) が多用され、オウシュウアカマツ (学名: *Pinus sylvestris*) やカバノキ (学名: *Betula*) 属も一緒に見かけることがあります。このヘザーガーデンにあるマツノキは、110種類以上ある北半球原産のマツ科 (学名: *Pinus*) の中のほんの一握りです。近くに寄って良くご覧ください。ヘザー (学名: *Calluna species*) はうろこ状の葉をもち夏の終わりに花を咲かせます。ヒース (学名: *Erica*) は針のような葉をもち一年を通して花を咲かせます。ヘザーは羊の好物のようです!

ヘザーガーデンからいずれかの小道をお進みになると、茶色の玄武岩でできた農家の小屋に似せて作られた雨風を避ける為の避難所に至ります。石橋を抜けて左をお進みください。多年生庭園 (the **Perennial Garden**) が突き当たりで見えます。左手には丁寧に刈り込まれた生垣を背景に多年草を種類別に群生させた、より形式的なデザインの庭園があります。右手にはもっと形式張らないスタイルで手入れされた多年草の生垣があります。岩壁の向こう側には広大な芝生のエリアがありますが、それは当園が未だゴルフコースであった往時を偲ばせる数少ない場所です。結婚式や数多くのイベントが頻繁にこの美しい芝生の場所で行われます。

来た道を多年草庭園の入口までお戻りになり、右に曲がり、そのまま真っ直ぐお進みください。春先に黄金の鎖のようにきらめく花房をつける当園で有名なキングサリの小道 (**Laburnum Walk**) 付近を通りかかります。そして右手に伝統的バラ園、ヘリテージ・ローズ・ガーデン (the **Heritage Rose Collection**) が見えてきます。そのまま石のアーチを抜けるともう一つのよりフォーマルなバラ園、フォーマル・ローズ・ガーデン (the **Formal Rose Garden**) に下りていきます。ここには1800年代に活躍したスコットランド出身の著名な植物コレクターであるデイビット・ダグラス氏 (*David Douglas*) と、スウェーデン出身の植物学者であり分類学の父として知られるカール・リンネ (リンネウ

ス) 氏 ( Carl Linnaeus ) の胸像がこのバラ園を望む場所に鎮座しています。カール・リンネ氏は生物分類体系を世界で初めて考案し、今日に至るまで世界中で使われています。偉人達の胸像の視線の先にはゲルハート・クラス氏 ( Gerhard Class ) 作の美しい日時計があります。

フォーマル・ローズ・ガーデン ( the Formal Rose Garden ) 出口の鉄のアーチから右手すぐの分岐路に生えているのは黄金色に輝くアメリカキササゲ ( 学名 : Catalpa bignonioides ) です。これは1975年8月30日の当園の開園日に地元名士によって植樹されたものです。このアメリカキササゲの木と温室の間の小道をずっとお進みになり左に曲がり、ハーブ園とフレグランス園 ( the Herb and Fragrance Gardens ) を越えると、睡蓮 ( 学名 : Nymphaea ) の池に囲まれたフィリス・ベントールガーデン ( the Phyllis Bentall Garden ) に至ります。他の多くの熱帯地方原産の植物と異なり、耐寒性睡蓮は生育するために静水を必要とし、もっぱら日中に花を咲かせます。この睡蓮はだいたいおおよそ正午頃に開花し、日没とともにその花を閉じます。このフィリス・ベントールガーデンには低木類も多く植えられていることが特徴で、夕刻にはその低木から芳しい香りがあたり立ち込めます。

リビングストーン湖 ( Livingstone Lake ) に面したフィリス・ベントールガーデン ( the Phyllis Bentall Garden ) の端にある鉢の中には食虫植物コレクション ( Carnivorous Plant Collection ) が控えめに植えられています。食虫植物は、主に昆虫類が豊富に生息する環境で、かつあまり養分のない酸性の沼地や湿地帯に生えます。これら食虫植物は不足した養分を補うべく昆虫類を捕らえて消化するという驚くべき能力を進化させてきました。

ビジターセンター ( Visitor Center ) にお戻りになるにはリビングストーン湖 ( Livingstone Lake ) へ進む小道を下って行きます。途中、ブリティッシュ・コロンビア産出のヒスイでできた冷水器でのどを潤してください。右に曲がり木の橋を越えるとビジターセンターに辿り着きます。短いツアーでしたがお楽しみ頂けましたでしょうか。又のご来園を心よりお待ちしております。当園は55エーカー ( 22ヘクタール ) あり、季節ごとに変化がありお楽しみ頂けるようになっています。